岡山県高梁市川面町に分布する中新統と軟体動物化石群の研究

中田昇吾*・難波杜夫*・田口栄次**・鈴木茂之***・石垣忍****

*岡山理科大学生物地球学部古生物学研究室卒論生

**新見市西方982

***岡山大学理学部

****岡山理科大学古生物学・年代学研究センター

岡山県高梁市川面町井才は，吉備高原北部の標高250-290mの丘陵地で，以前から貝化石の産出が知られていた．1983年に地元のグループによる貝化石の発掘が行われた．今回，この発掘地点付近を再調査するとともに，1983年発掘時と1980年代初頭に産出した大型の二枚貝化石2個体と，共産した貝化石を検討した結果，以下のことが判明した．

1．本地域の貝化石産出層は，基盤である風化した粗粒花崗岩上に不整合に重なる，層厚10-15mの砂岩泥岩互層からなる．泥質細粒砂岩層からは*Vicarya japonica* Yabe et Hatai，*Tateiwaia yamanarii* (Makiyama)，*Rhizophorimurex capuchinus nagiensis* (Taguchi, Osafune et Obayashi)，*Hataiarca kakehataensis* (Hatai et Nisiyama)，*Striarca elongata* Taguchi, Osafune et Obayashi，*Striarca uetsukiensis* (Hatai et Nisiyama)などが，粗粒砂岩層からは*Vicarya japonica* Yabe et Hatai，*Crassostrea gravitesta* (Yokoyama)が産出する．動物群集としてはArcid-Potamidid動物群(津田，1965)に対応する．本地域の地層は，これらの産出化石と層相より，備北層群相当層である中新統，有漢累層の山形泥質砂岩部層(藤原ら,2001)に対比され，また備北層群(上田1989)の是松層にも対比できる．

2．粗粒砂岩層から発見された*C. gravitesta*化石は，3個体の群体を示し，埋没姿勢が生活姿勢を維持し，しかも棒状のものに付着していた痕跡が見られた．層相および貝化石の産状より，本地域は，通常は潮間帯に位置する汽水域で泥がゆっくりと堆積する泥質マングローブ沼の環境であるが，時に強い水流によって粗粒砂が運び込まれるような環境であったと推定される．

3．大型二枚貝化石2個は同種と推定され，*Eamesiella*属に近縁と考えられるが，鉸歯が観察不可能のため，詳しい属種の判定はできなかった．

本研究は日本古生物学会第171回例会（名古屋大学）においてポスター発表を行った。発表においては、日本の中新統研究者と討論を行うことができたほか、軟体動物化石の道程に関しては、栗原行人（三重大）および松原尚志（北海道教育大釧路校）と詳しい検討を行うことができた。

本研究で扱った化石は川面町の藤井洋治氏他と相談し、倉敷市立自然史博物館に寄贈・登録を行った。また、研究結果は倉敷市立自然史博物館研究報告第37巻に投稿・受理され、2022年3月25日発行予定である。